

改修などの課題が明らかに

市では、市が保有する公共施設について、その整備状況、維持費や改修費、老朽化の程度などの実態を把握するため「公共施設白書」を作成しました。この白書から明らかになった公共施設の現状と課題をお知らせします。

成田空港の開港以降、市では大規模な都市基盤整備や公共施設整備を進めてきました。

今後、かつての経済成長や人口

の増加に合わせて整備してきた公共施設が老朽化し、施設の改修・建て替え費用などが増大していきます。また、改修・建て替え時期が集中するため、一時期に多額の支出が必要となります。

このような状況は、全国の自治体に共通の課題となっています。

なお、公共施設白書は、行政資料室(市役所1階)、企画政策課(市役所3階)、下総・大栄支所、各公民館、市立図書館、保健福祉館、三里塚コミュニティセンター、もりんぴあこっづ、企画政策課

ホームページ(<http://www.city.narita.chiba.jp/sisei/sosiki/kikaku/pakome.html>)で閲覧できます。

施設の築年別の整備状況

市内の公共施設の数(市庁舎や公民館、図書館など)684施設で、延床面積にすると約37万9,000平方メートルを保有している結果となりました(図1参照)。

築年別に見ると、人口が増加し始めた昭和46年～平成3年に施設の整備が集中していて、年間で約1・2万平方メートルを整備していました。

その後の20年間は、年間約0・5万平方メートルの整備を行っています。



国際文化会館



市立図書館



中央公民館



中台運動公園陸上競技場

図1 施設の築年別の整備状況

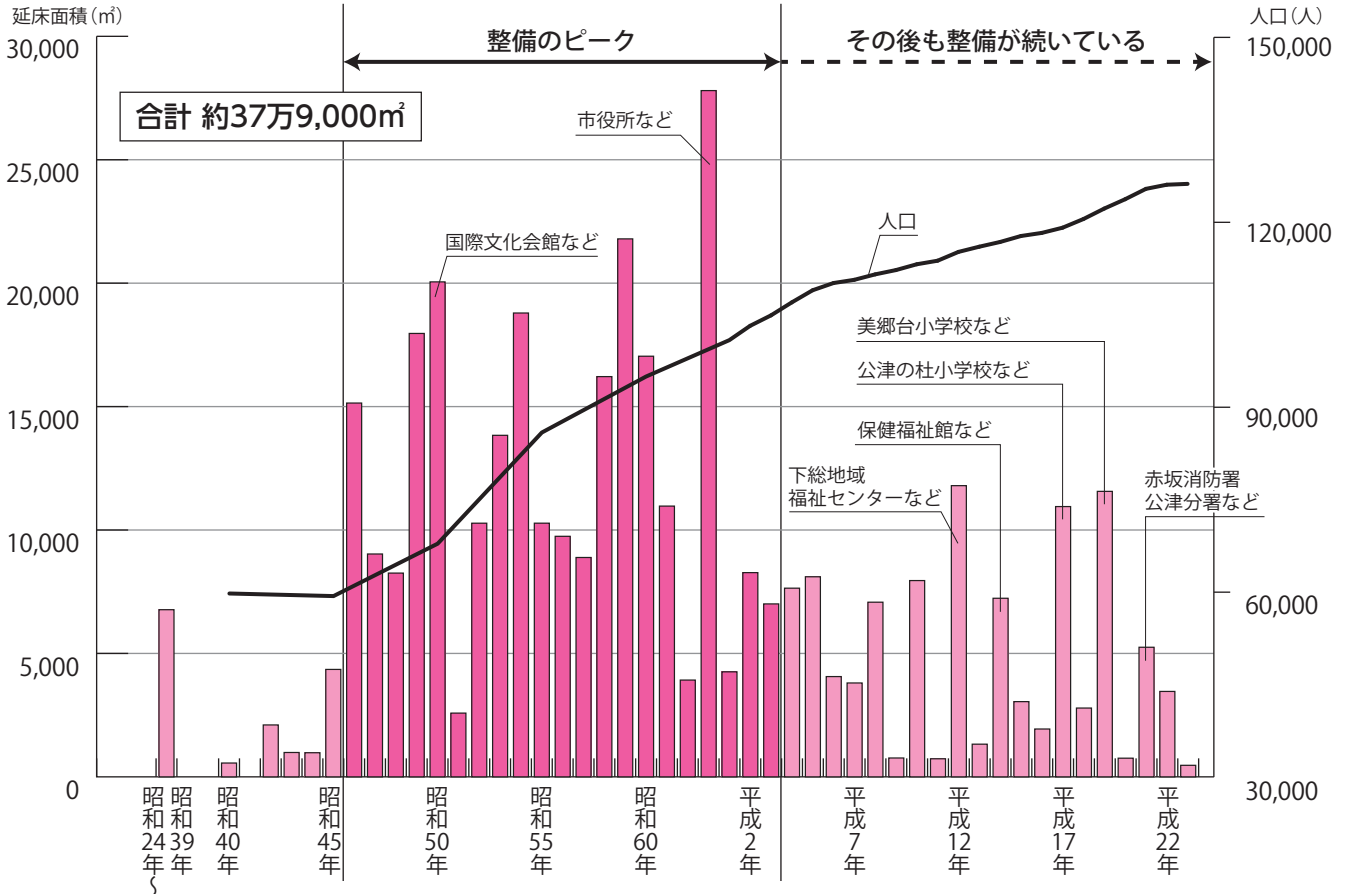
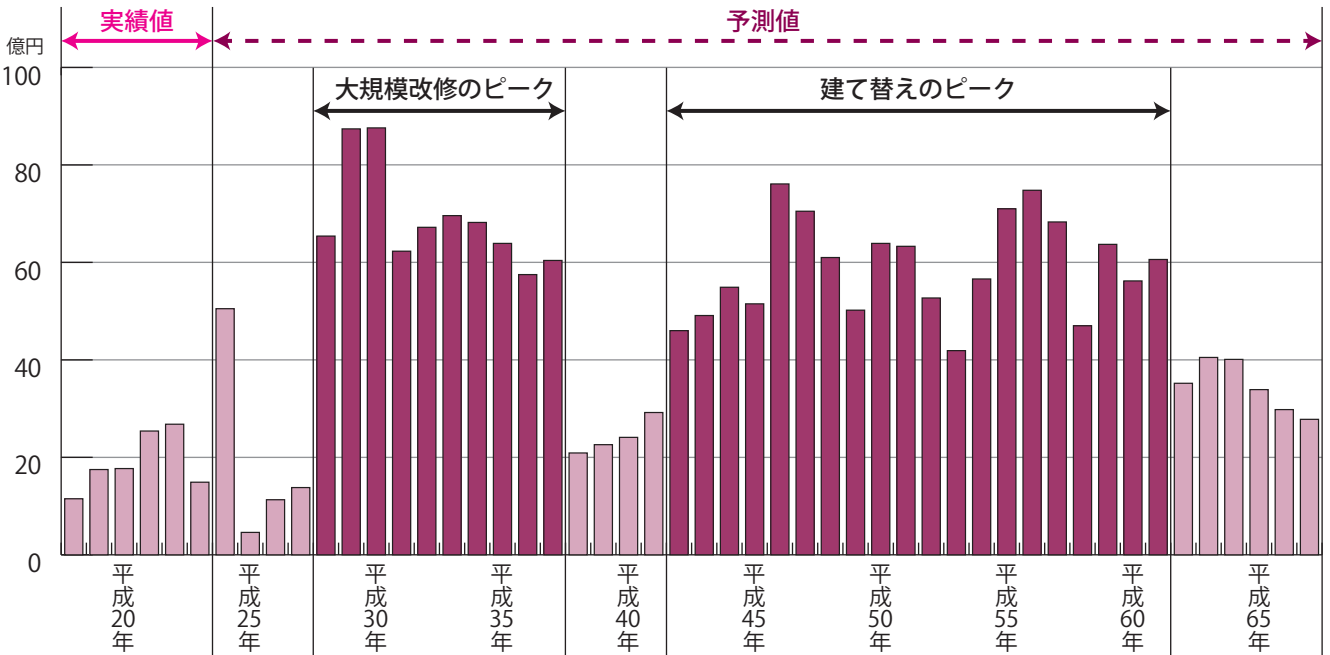


図2 施設の維持・改修・建て替え費用の予測



*建物の耐用年数は60年と仮定する。大規模改修は建設後30年で行い、その後30年で建て替えると仮定する。

昭和46年以降の整備のピーク時に建てられた建物は最も新しい施設でも築20年以上を経過しているため、今後対策が必要な施設が急激に増加すると考えられます。また、その中で最も古い施設は築40年を迎えていて、すでに老朽化が進んでいる施設もあります。

維持・改修・建て替え費用の予測
施設の維持経費や、大規模改修・建て替えの時期と費用を予測しました(図2参照)。予測では、平成28～37年が大規模改修、平成42～61年が建て替えのピークになるという結果になりました。現在保有する全ての公共施設を良好に維持管理するためには、今後40年間で約2、300億円の予算が必要という試算になりました。

公共施設保全計画の策定

市では、公共施設白書を活用し、既存の公共施設の大規模改修や建て替えに掛かる費用の削減と負担の平準化を図るため「公共施設保全計画」の策定を進めています。

施設の重要度や老朽化の程度から保全の優先順位を付けて、大規模改修や建て替えのスケジュールを策定します。また、施設の整備水準や長寿命化の検討を行います。

※くわしくは企画政策課(☎20・1500)へ。